



## 災害から身を守る —台風や豪雨などに備える避難行動—



日本では、毎年のように、大雨や台風などによる洪水や土砂災害などが発生し、多くの被害が出ています。

一昨年に発生した「平成30年7月豪雨」では、市内においても7月3日～8日にかけて降り続いた大雨により、市内各地に土砂災害や住宅への浸水などの大きな爪痕を残しました。この際、市内では、避難指示が発令され、市内の避難所にはピーク時2,669人もの方々が避難されました。

普段から災害に備え、周辺の危険箇所の確認や「災害時避難情報」と「警戒レベルに応じたとるべき避難行動」について確認しておきましょう。



### —警戒レベルを用いた避難情報—

住民の皆さんが災害発生の危険度を直観的に理解し、的確に避難行動ができるようにするため、避難に関する情報や防災気象情報等の防災情報を5段階の「警戒レベル」を用いてお伝えしています。

	警戒レベル	避難情報 (市が発令)	住民がとるべき行動	気象情報等 (国や県が発表)※①
大 危険度	5	災害発生情報※②	すでに災害が発生している状況です。命を守る最善の行動をとってください。	特別警報 氾濫発生情報
	4	避難指示(緊急)※③ 避難勧告	危険な場所から、速やかに避難場所に避難します。	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報など
	3	避難準備・ 高齢者等避難開始	避難に時間がかかる高齢の方や障がいのある方などは安全な場所へ避難、その他の方は避難を準備します。	大雨警報洪水警報 氾濫警戒情報など
	2	—	ハザードマップなどにより、避難先や避難経路を確認し、避難に備え、自らの避難行動を確認します。	大雨注意報 洪水注意報
小	1	—	最新の防災気象情報などに留意し、災害への心構えを高めます。	早期警戒情報

警戒レベルは必ずしも1から5の順番に発令されるとは限らないのでご注意ください。

※①大雨警報や洪水警報が発令された場合、必ずしも警戒レベル3避難準備・高齢者等避難開始が発令されるとは限りません。市では気象情報や今後の降雨予想などを総合的に判断して避難情報を発令しますのでご注意ください。

※②災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令し、災害の発生を伝え住民に命を守る最善の行動を求めるものです。

※③避難指示(緊急)は必ずしも発令されるものではなく、地域の状況に応じて、緊急的に、または重ねて避難を促す場合に発令されるものですので、避難勧告が発令次第、危険な場所にいる方は避難をしてください。

### You Tubeで動画配信中

「新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた防災」についての動画を配信しています。QRコードからご覧いただけますので、ぜひご覧ください



### 避難行動のポイント

- ◇ 「避難」とは「難」を「避」けること、つまり安全を確保することです。安全な場所にいる人は、避難所に行く必要はありません。
- ◇ 避難先は、小中学校などの指定避難所だけではありません。安全な親戚・知人宅に避難することも考えましょう。
- ◇ 「警戒レベル3」で危険な場所から高齢者などは避難行動をとりましょう。「警戒レベル4」で危険な場所から全員避難行動をとりましょう。

「自らの命は自らで守る」の意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動の確認



普段から確認を避難するべきか迷ったら…避難行動判定